



平成31年1月21日(月)
国土交通省 関東地方整備局
河 川 部

記者発表資料

河川に経済圏を作ろう！水辺で起業？！ ミズベリング勉強会(6)開催

国土交通省では、「資源としての河川利用の高度化」に取り組んでおり、「魅力ある水辺空間の創出」方法として、水辺を活用したい人々の取り組みを積極的に支援することを方策としています。

また、河川空間を利用して、収益事業を促進する方策として「国土交通省生産性革命プロジェクト31」に「河川空間イノベーション」を位置づけました。

河川管理者が地方公共団体と共同で事業者公募する河川利用やクラウド・ファンディングで活動資金を調達している活動事例を紹介し、金融機関からの視点も踏まえて「水辺で稼ぐ」の可能性を議論します。

日時:平成31年2月26日(火)13:15～17:15

主催:国土交通省関東地方整備局

場所:さいたま新都心合同庁舎2号館5階中研修室5B

対象者:水辺活用に関心のある法人・個人、地方公共団体

参加費:無料(定員50名)

申し込み方法:別紙1(報道機関の方も申し込みできます)

●関東のミズベリング

<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/index00000007.html>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、都庁記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ
茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、
刀水クラブ・テレビ記者会、千葉県政記者会

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課

課長 吉川 宏治(よしかわ こうじ) (代表)048-601-3151(内線3651)

課長補佐 黒沼 尚史(くろぬま ひさし) (代表)048-601-3151(内線3656)

FAX048-600-1379

関東ミズベリング勉強会(第6回)

日時:平成31年2月26日(火)13:15~17:15

場所:さいたま市さいたま新都心合同庁舎2号館中研修室5B

主催:国土交通省関東地方整備局

プログラム

1. 関東のミズベリング・プロジェクト

民間企業参加募集の進め方 荒川下流河川事務所 社会実験他

【関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼尚史】

2. 東京都北区政策課題研究会ROSÉ(ロゼ)

若手職員の政策形成能力の向上と創造的な区政運営を目指す取り組み

【東京都北区政策経営部企画課主査 野田和希】

3. TAMARIBA

行政予算に頼らない資金調達、クラウドファンディング利用

H28年3000人→H29年7000人→H30年1万人以上集客

【コマエカラー代表 篠塚 雄一郎】

4. ヒト・モノ・マチをつなぐ城北信用金庫のビジネス支援

クラウドファンディングを活用したコンサルティングと

オウンドメディア「NACORD」によるプロモーション支援

【城北信用金庫 理事長 大前 孝太郎・コミュニケーション開発事業部 越野理恵】

5. 水辺経営 クラウドファンディング

民間主導の水都大阪の取り組み

【E-DESIGN代表 忽那裕樹】

6. 水辺活用の可能性を創造する

平成14年日本初の国産水陸両用バス(国産第1号)を導入

【関東地方整備局 河川部長 佐藤寿延】

7. 座談会

テーマ:水辺の様な「公共空間」を使って稼ぐ「河川に経済圏を作ろう！」

パネラー

・コマエカラー代表 篠塚雄一郎

・東京都北区政策課題研究会ROSÉ(ロゼ) 野田 和希

・城北信用金庫 理事長 大前 孝太郎

・E-DESIGN代表 忽那 裕樹

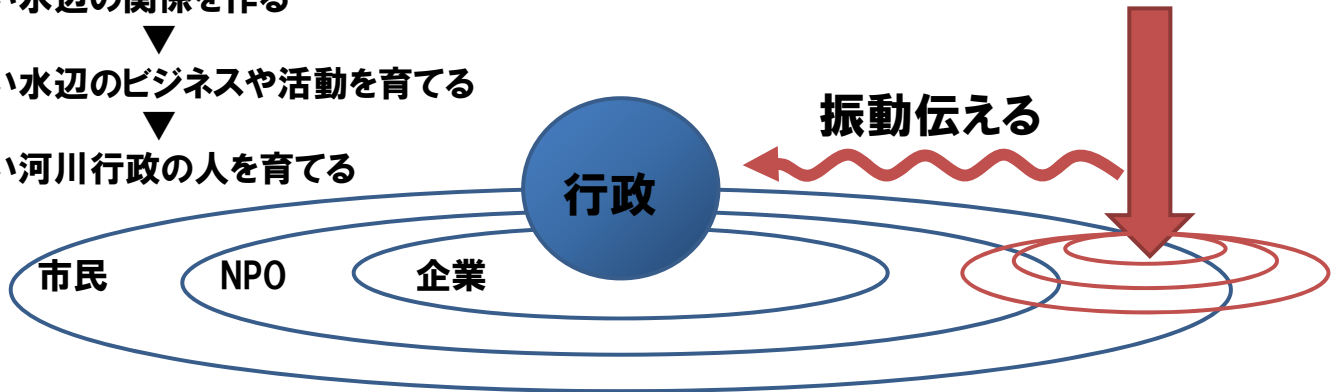
・関東地方整備局河川部長 佐藤 寿延

ミズベリング・プロジェクト概念図

外から中に作戦

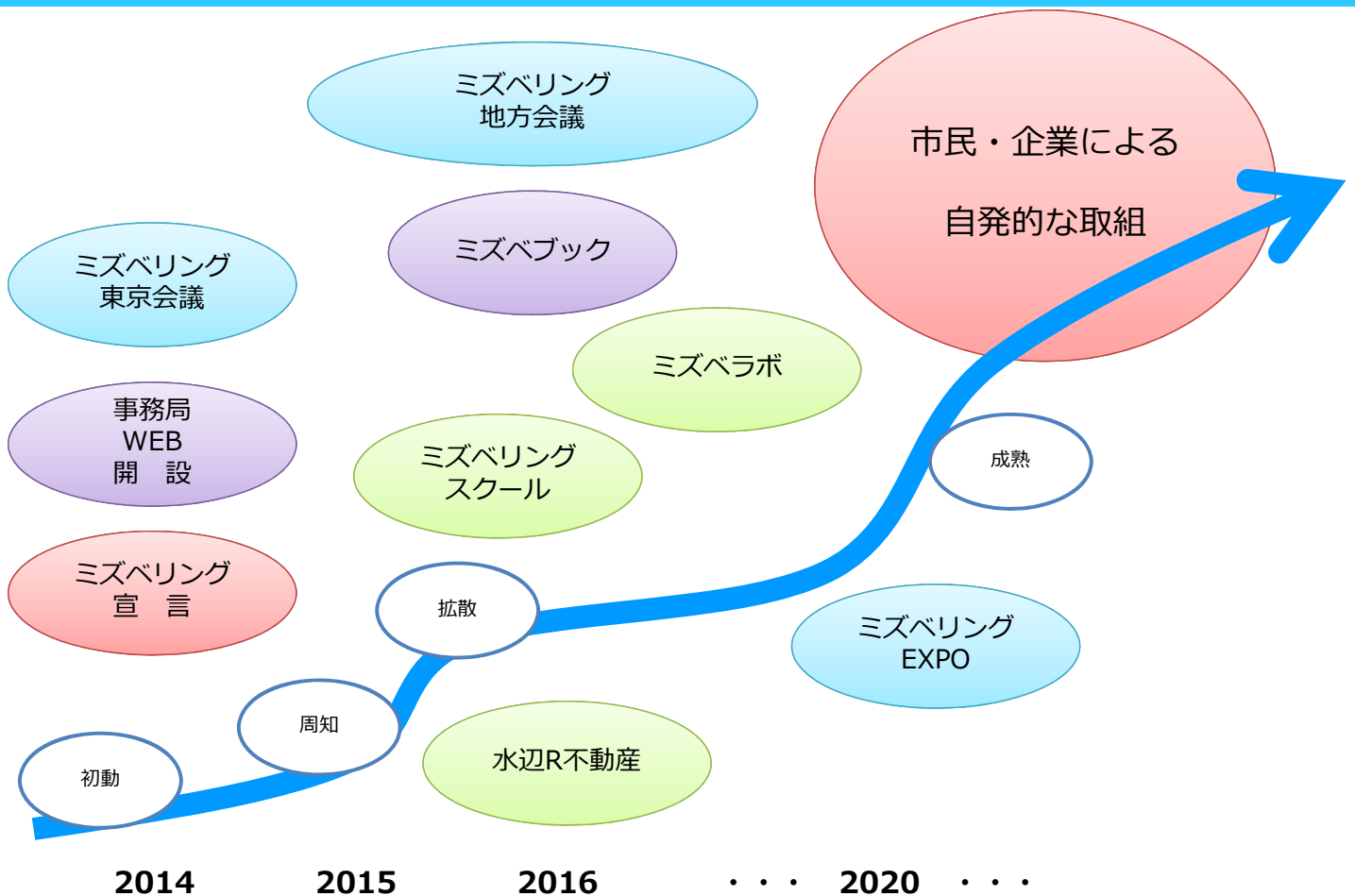
- ・水辺に新しい関心を集める
- ・水辺に新しいアイデアを育てる
- ・新しい水辺の関係を作る
- ・新しい水辺のビジネスや活動を育てる
- ・新しい河川行政の人を育てる

ここから始める
(私が始める)



- ・水辺を楽しむ人
- ・水辺で街を変える人
- ・水辺で新しいビジネスを作る人 を増やす

ミズベリング・プロジェクトの当面の展開イメージ



国土交通省生産性革命プロジェクト31

河川空間活用イノベーション～未利用空間の活用による生産性向上～

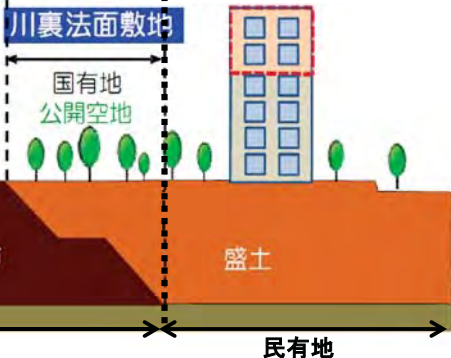
関東ミズベリング勉強会の構成

①水辺の活用による地域活性化

②民間事業者による河川敷地の一体的な活用

かわまちづくり計画 ← まちづくり関連法定計画

○河川空間の民間事業者による活用を促進することで、地域の「**儲ける力**」を向上、民間開発を促進



ミズベリング勉強会(6)2月26日

●河川に経済圏を作ろう！水辺で起業？！

ミズベリング勉強会(7)3月13日

●防災に強いまちづくりが水辺で稼ぐ(仮)

ミズベリング勉強会(5)1月16日

●「多自然川づくり」の官民連携で稼ぐ

・持続性ある実践的な多自然川づくり
・河川協力団体と民間企業連携による河道内樹木の伐採
・冬の河川敷でにぎわいづくり

①～薪ストーブの魅力～

②～冬の河川敷でもヨガ？！～

ミズベリング勉強会(1)7月10日

●水辺で民活「官民連携かわまちづくり」

・資源としての河川利用の高度化
・都市再生整備計画を活用した河川のオープン化
・企業・自治体・河川管理者が参加する会議態
・羽田空港跡地のかまちづくり計画

ミズベリング勉強会(2)8月28日

●多様な水辺の価値を知って、観て、活かす

・船でめぐる東京の水辺
・日頃使わない神経を「水辺」が刺激する
・地域の資源を磨くことで「もてなし力」がつく
・水辺から始まる市民主導の公民連携

産官学マッチング説明会 9月14日

●多摩川の資源を活かした観光まちづくりプラン

・プラン実現協働企業の募集
・産官学のマッチング

ミズベリング勉強会(3)11月21日

●観光まちづくりプランで産官学広域連携

・大学生観光まちづくりコンテストとは
・これまでのステージ・取り組み紹介
・地方と東京圏の大学生対流促進事業
・制度活用事例(山梨県立大)
・かわまちづくり実施中の地方公共団体の視点

ミズベリング勉強会(4)12月21日

●ミズベ(地域)活性化の始め方

・かわまちは、まちから。ミズベリングは人から
・地域活性化企画研修
・観光まちづくりコンサルティング事業
・官民連携基盤整備推進支援事業
・笛吹市の活用事例発表

ミズベリング勉強会(1) 水辺で民活「官民連携かわまちづくり勉強会」

関東ミズベリング勉強会(第1回)

日時:平成30年7月10日(火)14:00~17:00

場所:さいたま新都心合同庁舎2号館5A研修室

参加:30団体70人(自治体9、企業13、国8)

プログラム
1. 資源としての河川利用の高度化【水島川環境課】
2. 官民連携かわまちづくりの進め方【関東地方整備局】
都市再生整備計画を活用した河川のオープン化
3. 多摩川流域まちづくり勉強会の紹介【東電監】
※企業・自治体・河川管理者が参加する勉強会
4. 羽田空港跡地かわまちづくり計画の紹介【大田区】
水辺の商業利用の話題提供
5. 大学生観光まちづくりコンテスト2018多摩川ステージとは【JTBB】
多摩川の資源を活かした観光まちづくり



ミズベリング勉強会(3) ～観光まちづくりプランで産官学広域連携～

関東ミズベリング勉強会(第3回)

日時:平成30年11月21日(水)13:15~17:15

場所:東京都大田区南田地域庁舎南大会議室

参加:20団体40人(民間8、自治体9、国3)

プログラム
1. ミズベリング・かわまちづくり、河川空間活用イノベーション【関東地方整備局】
2. 大学生観光まちづくりコンテストとは【株式会社JTBB】
3. ステージターンの実施と今後の展開【関東地方整備局】
4. 内閣府・内閣官庁における地方官民連携事業
地方と東京圏の大学生対流促進事業等
【内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局】
5. 制度活用大学連携(地方と東京圏の大学生対流促進事業)
【プロジェクト実行委員会 山梨県立大学理事佐藤文昭】
6. かわまちづくり計画実施中の地方公共団体の視点
【大田区】
7. 東京圏と地方圏が連携すれば・・・



ミズベリング勉強会(2) ～多様な水辺の価値を知って、観て、活かす～

日時・場所:平成30年8月28日(火)13:30~17:00

場所:川崎市第4庁舎会議室 参加:28団体60人(自治体9、企業16、国3)

プログラム

勉強会主旨説明 関東地方整備局河川環境課 松本 裕佳
1. ミズベの文化センター
2. 日頃使わない神経を「水辺」が刺激する
3. ～本物の地域活性化をしよう～
一般社団法人 まちの魅力を研究 理事、東京大学名誉教授 堀 繁
4. 水辺から始まる市民主導の公民連携
三井不動産株式会社企画調査部上席主幹 辻田 昌弘
5. 産官学・意見交換
comaeo代表 篠原 隆一
株式会社リビタホテル事業部 西山 尚子
6. ミズベリングの視点でものを見てミズベは川だけのものではない
ミズベリングアドバイザー 藤井 政人



ミズベリング勉強会(4) ～ミズベ(地域)活性化の始め方～

日時:平成30年12月21日(金)13:15~17:15

場所:さいたま新都心合同庁舎2号館5号研修室6B

参加:22団体57人(自治体14、国7、独1)

プログラム

1. 勉強会趣意説明 かわまちは、まちから。ミズベリングは人から
【関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼 尚史】
2. 地域活性化企画研修 公務員の地域活性化の実践
【関東地方整備局河川部 部長 佐藤 寿延】
3. 関東観光まちづくりコンサルティング事業
【日本旅行業協会(JATA) 関東支部事務局長 渡辺 孝一】
4. 官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業
民間活動に合わせた自治体の事業化検討を機動的に支援します
【国土交通省国土政策局地方政策課調整専門調査員 小池 昌典】
5. 石和温泉地域における地域活性化に関する調査
6. 笛吹市かわまちづくり計画の取り組み状況
【山梨県笛吹市政策課・保崎、観光商工課・角田】
7. 意見交換
・地域活性化は、持続することが重要で、雇用が発生するキャッシュフローが大事
・夢を売る事業は、万人受けはしない。個人のリーダーが増えている中、団体旅行を見直し、教育体験旅行の可能性などに期待している。
・宿泊施設の少ない地域でも民泊がミズベリングの可能性を広げるのではないかと
・施設整備+PFIを重点支援。予備設計段階+民間連携が決まっていることが重要



H26年 ミズベリング推進研究会の実施

かわまちづくり等を実践している 直轄河川の事務所

- 北海道開発局 旭川河川事務所
- 東北地方整備局 北上川下流河川事務所
- ・**関東地方整備局 荒川下流河川事務所**
- 北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所
- 中部地方整備局 沼津河川国道事務所
- 近畿地方整備局 大和川河川事務所
- 中国地方整備局 出雲河川事務所
- 四国地方整備局 徳島河川国道事務所
- 九州地方整備局 熊本河川国道事務所

水辺の利用先進都市

- ・東京都 建設局河川部
- ・名古屋市 緑政土木局河川部
- ・大阪府 都市整備部河川室
- ・大阪市 建設局下水道河川部河川課
- ・広島市 経済観光局観光政策部
- ・北九州市 建設局河川部



多様な立場の人間が主体となって取り組むミズベリングプロジェクトの地域での浸透を目指し、**各地域の特色**や**機運を高める方策**などについて意見交換

第1回 平成26年4月24日(木) 第2回 平成26年8月28日(木)・29日(金)

水管理・国土保全局 渥美河川環境課長：

○水辺の価値を今一度考えることで、都市のにぎわいを取り戻す。

○今までとは違う関係者、企業や団体との**新しい関係の構築が必要**である。

○そのため重要なのは、「**ひとづくり**」。

○今まで会ったことのない人のところに出向いてほしい。



ミズベリング荒川下流会議

<http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage00434.html>



荒川下流河川事務所では、東京大学工学系研究科の知花武佳准教授を座長にお迎えして、住民、企業、行政が連携し、賑わい、美しい景観、豊かな自然環境を備えた水辺空間を、まちづくりと創出するミズベリング荒川下流会議を立ち上げました。

記念すべき**第1回**目を平成26年11月20日に開催しました。



第7回ミズベリング荒川下流会議を平成30年1月12日に荒川知水資料館アモアホールにて開催し、荒川下流でのミズベリングの取組みの成果や反省点を振り返るとともに、“岩淵らしい水辺の賑わい”“づくりの方向性について明確にし、共有した上で、今後の取組みの具体案のアイデア出しを行うことを目的として意見交換を実施しました。

社会実験のポイント

- ・河川管理者が自ら民間事業者の募集・実施を行い、河川法以外の事業実施上の諸課題を把握し、企業及び自治体の抱える不安や課題を改善し、「出来ることを見せる」ことで、企業参入、自治体の自立的な活動への発展を促進する。
- ・複数回社会実験により、地元合意の醸成・形成と企業出店ノウハウの向上を同時に図る。

ステップ1

○河川管理者が自ら民間事業者を募集(自治体は関係者として参画)

- ・期間と実施場所、禁止事項等の条件を示し、公募

H29までに済み・事業実施した結果、河川管理上の課題や事業改善点を関係者と共有

ステップ2

○自治体と河川管理者共催で民間事業者を募集

- ・自治体は社会実験当事者として、実務を共有
 - ・本来不要な関係申請手続きなどを実務支援し実施
- ※本運用で必要となる関係書類は体験作成してしまう。

ステップ3

○自治体が民間事業者を募集

- ・過去2カ年の経験・書類手続きを踏まえ実施
- ・社会実験実施による課題抽出及びデータの収集
- ・オープン化是非の地元意見の集約

ステップ4

○他自治体へ取り組みを展開する。

ミズベリング社会実験
水辺の新たな魅力 再発見! InARAKAWA

水辺フェスタ赤羽岩淵2018



荒川下流部で、H23.3河川敷占用許可準則の緩和後の「都市及び地域の再生等のために利用する施設に係る占用の特例」実現に向けて、また、緊急船着場の認知度、利用促進を目的として、一般公募した民間事業者と水辺の賑わい創出を行う、ミズベリング社会実験

「水辺フェスタ赤羽岩淵2018」を9月23日(日)、24日(月・祝)に開催し、2日間で延べ約2,600人が参加しました。

【開催概要】

○名称: 水辺フェスタ赤羽岩淵2018

○開催期間: 平成30年9月23日(土)、24日(月祝) 10:00~16:00

○開催場所: 荒川水系荒川 右岸21k 岩淵緊急用船着場周辺、荒川知水資料館

○主催者: 荒川下流河川事務所 北区

○店舗数: 荒川マルシェ(飲食販売コーナー 6店舗) 荒川ミニクルーズ(1者) ワークショップ(2者)、防災体験会(荒川下流河川事務所)

○参加者数: 2,600人

水辺に
つづ

メイン会場全景

水辺で
くつろ

飲食休憩スペース

水辺で
学ぶ!

防災体験会
(水門見学)

水辺で
体験!

水門をくぐる体験や
カイト解説がある
「荒川ミニクルーズ」

水辺で
食べる!

荒川マルシェ
(飲食販売コーナー)

アモアで
体験!

アモアでの
ワークショップ

<https://www.city.kita.tokyo.jp/kikaku/kuse/shisaku/seisakukadaikenkyukai.html>

北区では、区の課題解決のための調査研究を行う政策課題研究会を設置しています。

研究会の名称である「ROSÉ（ロゼ）」とは、「道筋（ROute）を研究する（reSEarch）会議（SEssion）」を意味しており、多様な醸造手法をもち、製造に工夫が凝らされているロゼワインのように、創意工夫し知恵を絞りながら北区独自の方向性や政策を研究・実践するための場となることを目指して名づけました。

この研究会は、若手職員の政策形成能力の向上と創造的な区政運営を目指し、平成22年度に設置されて以来、部局を横断する様々な職場から集まった若手職員（概ね入区4年目から10年目の職員）が、多様な感性や現場感覚を融合させながら、時代に即した様々な課題に取り組んできました。

（近年の研究テーマ）

平成29年度 多文化共生社会の実現のための調査研究

平成28年度 フレイル予防に関する調査研究

毎年、1年間の活動成果をまとめた事業提案書を作成し、関係各課とともに事業実施に向けた検討を行っています。

平成30年度の研究テーマ

「水辺空間の有効活用に関する調査・研究 ～北区版ミズベリング・プロジェクト～」

北区は荒川、隅田川、石神井川、新河岸川の4つの河川に恵まれ、それぞれが豊かな水辺空間を形成しています。「人と水とみどりの美しいふるさと北区」の実現をめざし、水辺空間の新しい活用の可能性について調査・研究を行います。



荒川の現地調査



中間発表会（10月）の様子

今年は東京大学の知花武佳准教授をアドバイザーとしてお迎えし、区内の河川や他自治体の様々な河川活用事例を調査・視察しながら、北区における水辺の活性化について研究を進めてきました。

区長や各課管理職へのプレゼンとなる2月7日に最終報告会を行い、当日はこれまでのロゼの活動内容についてのご紹介をさせていただきます。

<https://mizbering.jp/archives/20787>

篠塚 雄一郎 Shinozuka Yuichiro

1971年東京生まれ。大学卒業後、建設コンサルタント会社勤務を経て、2008年より株式会社日建設計にて、国内外の都市開発プロジェクトに従事。2013年にたまたま移り住んだ狛江市にて、DIYスタイルで地域を面白くするチーム「comaecolor」を結成し、代表を務める。飲食、音楽、デザイン、webなど様々な業種の大人がプロボノで取り組み、多摩川河川敷での2日間のイベント「タマリバ」や旅館の敷地を借りた週末限定カフェ「ソトカワダ」を公的資金ゼロで運営。



comaecolor

東京・多摩地域にある「狛江市」を「もっと楽しい場所にしたい!」という思いから立ち上がった団体。行政予算に依存せず、クラウドファンディングも活用しイベントを開催し、H28年約3000人→H29年約7000人→H30年1万人以上の参加者数へ発展中

2017.06.18 14:37

タマリバのはじまり

<https://tamariba.amebaownd.com/>

かつて多摩川河川敷ではBBQも花火もできました。しかし残念ながら利用者のマナーの悪化で、いまではそれらは一切禁止となっています。狛江の大切な資源である多摩川を新たな取り組みで、多くの人に楽しんでもらうことができないだろうか？

そんな発想から、このプロジェクトは始まりました



<https://mizbering.jp/visionbook>



<https://tamariba.amebaownd.com/>



表紙の写真はタマリバの会場

ヒト・モノ・マチをつなぐ城北信用金庫の取り組み

大前 孝太郎 Omae Kotaro



1964年東京都生まれ。
大学卒業後、住友銀行（現三井住友銀行）に入行。
1998年より内閣官房特別調査員。
2001年より内閣府参事官補佐・企画官として構造改革特区・地域再生などを担当。
2006年、慶應義塾大学総合政策学部准教授に就任。
2009年、城北信用金庫常務理事
2016年5月より現職。
2017年3月より官民が連携する東京北区観光協会会長に就任。

2017年8月3日（木）に放送された「日経スペシャル カンブリア宮殿」（テレビ東京系列）に、城北信用金庫理事長の大前孝太郎氏が出演している。同番組では、理事長の地域への想いと、いま求められる信用金庫の役割、城北信用金庫独特の「金融」「非金融」による地元活性化への取り組みについて4ヵ月にわたる取材がされ、VTRをからめ紹介されています。

テレビ東京「カンブリア宮殿」公式サイト↓

<https://www.tv-tokyo.co.jp/cambria/backnumber/2017/0803/>

<http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage00800.html>

東京都の北区や荒川区を中心に展開する地元密着の金融機関である城北信用金庫。

その北区には住みたい街ランキングで急上昇の赤羽があり、**荒川下流河川事務所と北区が共同で開催**している「**ミズベリング社会実験 水辺フェスタ赤羽岩淵2018**」の取り組みがある。

また、金融の枠を超えたユニークな取り組みを次々と打ち出し、地元の中小企業や住民から絶大な信頼を得ていることが紹介されており、人や地域を丸ごと元気にする城北信用金庫の地域活性化術を**河川利用にも応用できないか**、講演、座談会の準備の過程で連携の可能性にも期待が膨らむ。

関東地方整備局で唯一「**ミズベリング推進室**」を有する荒川下流河川事務所と若手職員が活躍する「**政策課題研究会ROSÉ**」を有する東京都北区の連携に地元金融機関が及ぼす水辺活用の可能性の創造に期待が高まる。
観光協会など多様な地元企業・団体等とも連携した「水辺を活用した賑わいづくり」にミズベリング勉強会が少しでも役立つようにしていきたい。

「ヒト・モノ・マチ・カワをつなぐ城北信用金庫」に期待！

城北信用金庫 公式サイト↓

www.shinkin.co.jp/johoku/

地域企業メディア「NACORD」

<http://www.nacord.com/>

越野 理恵 Rie Koshino

城北信用金庫 コミュニケーション開発事業部
パブリックリレーションズグループ/クリエイティブグループ

越野さんの所属するコミュニケーション開発事業部は、非金融プロジェクトを企画・運営し、地域や顧客との新たな接点と価値を生み出すことに挑戦している。
その中で越野さんは、地域企業の魅力を発信するオウンドメディア『NACORD(ナコード)』を開設。クラウドファンディングやプレスリリース配信、HP制作支援など、地域の中小事業者のPRやブランディングを応援するサービスの企画にも従事。
昨年は「私たちの経済圏を作ろう」というテーマで語り合うトークイベント『NACORD TALK』を開催した。
クリエイティブな情報発信を通じて、地域企業と生活者をつなげることをミッションとし、ディレクターとして活動されている。



『NACORD TALK』の詳細はこちら↓

VOL.1 http://www.nacord.com/magazine/20180516_nacordtalk_vol1_report.html

VOL.2 http://www.nacord.com/magazine/20181025_nacordtalk02_report.html

NACORD ABOUT MAGAZINE CROWD FUNDING PRODUCT CONTACT



- ・NACORDは“ヒト・モノ・マチをつなぐ”をコンセプトに、地域企業のアイディアを発信するウェブサイト。※ここに「**カワ(川)**」が加わることが期待される。
- ・同金庫職員が企画・制作を行う経営者インタビュー・クラウドファンディング・商品紹介の3つのコンテンツを通じて、企業の魅力やストーリーを社会に伝えて貰えれば「**水辺で起業!**」の可能性も高まる。
- ・また、事業者同士が業界の垣根を越えて、ビジネスヒントを得られる場としても効果を発揮しているそうで、ミズベリングには強い味方になってくれるかも。金融サービスの枠を超えたこの取り組みは、独自のビジネス支援として多数のメディアで紹介されており、広報の相乗効果も期待される。

○クラウドファンディング実績

これまでに117件のプロジェクトが実施され、累計調達額は1億5322万2632円、累計支援者数は21680人。※2019年1月10日時点。同金庫を含む9金庫累計。 [目指せ! 水辺の第1号プロジェクト](#)

忽那裕樹 Kutsuna Hiroki

ミズベリング世界会議 in OSAKA プロデューサー
株式会社E-DESIGN代表取締役。ランドスケープデザイナー。1966年大阪府生まれ。大阪府立大学農学部緑地環境工学科卒業。景観・環境デザインをはじめ、まちづくりの活動や仕組みづくりまで、幅広いプロジェクトに携わる。庭園をはじめ公園や広場、大学キャンパス、商業・集合住宅・病院などのランドスケープのデザインとプログラムを国内外で展開。また、パークマネージメント、タウンマネージメントを通して、地域の改善や魅力向上に様々な立場に関わり、現在、官民協働の場として設立した水都大阪パートナーズの理事を務める。また、江之子島文化芸術創造センターのプロデューサー、NPO法人パブリックスタイル研究所の理事長を務める。

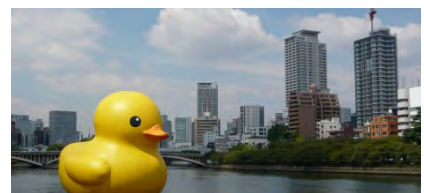


2014 ミズベリング東京会議

<https://mizbering.jp/archives/5780>

2014 大阪が「水都大阪」の取り組みですごいことになっているらしい

<https://mizbering.jp/archives/10511>



2014 本音で水辺の未来を考える「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」参加

<https://mizbering.jp/archives/12477>

ミズベセッション+スクールという二日間行われたこの会議では、参加者の半数以上は大阪以外ということで、多くの人が水都を訪れたことが分かりました。来年は水都大阪フェスに併せて、「ミズベリング世界会議」を行いたいとのビジョンを示していただきました。



2015 ミズベリング世界会議 IN OSAKAレポート

<https://mizbering.jp/archives/18363>

記録集 - 国土交通省近畿地方整備局

水辺を使いこなすことこそが、まちを魅力的にしてい



2016 第1回アドバイザリーボード会議を開催

<https://mizbering.jp/archives/20645>

水辺経営。水辺も経営する概念になって、ミズベの利活用でクラウドファンディングをやっていただいたら嬉しいなど

2017 デアイデアス | DE-iDEAS

<http://mizbering.jp/md>

2018 “ミズベスクール”に参加（近畿地方整備局主催）

<https://www.kkr.mlit.go.jp/news/river/event/2017/019a8v000000khtx-att/019a8v000000khwm.pdf>



水辺利用の可能性を創造する

H14年日本初の国産水陸両用バス（国産第1号）を導入

佐藤 寿延 Sato Hisanobu

現：国土交通省関東地方整備局河川部長。

湯西川ダム事務所長時代

H14年日本初の国産水陸両用バス（国産第1号）を導入

「水陸両用バスを活用したダム観光活性化実験の評価

-ダムとダム湖は観光活性化の起爆剤になり得たか」著者

http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000644852.pdf



大自然の中で

ダム湖を遊覧!!

栃木

ー水陸両用バスで行く湯西川ダムー



国産第一号車として開発した、日本初の国産水陸両用バスに乗って
陸路からダム湖へのタイプは強力なポイントです。
道の駅「湯西川」では、湯西川ダムカヌーにもお目にかかれます。

平成30年の営業日 4月13日(金)～12月2日(日)

ご予約とお問い合わせは、次のところまで。

湯西川タックツアー

TEL:0288-78-0345

詳細は、ホームページでも確認できます。

<http://www.japan-ducktour.com/>

湯西川ダムについては、こちらのホームページで紹介しています。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kiandamu/kiandamu-index.html>



〇ミズベ(地域)活性化の始め方 ミズベリッング勉強会(4)

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000412.html

～公務員の地域活性化の実践～



ツアーのハイライト!! 水陸両用バス着水の瞬間



湖上からの上陸



ダム湖を遊覧



土日も含めてダムを職員が案内



車両を取り囲む多くの観光客



陸上からも壮観な眺め



水陸両用バスを地域も応援

水辺とまちの未来創造メッセージ 概要版

～ここから水辺の未来が動き出す～

○概要

水辺とまちの未来のかたちをデザインし、持続可能な未来の創造に貢献するための「水辺とまちの未来創造プロジェクト」の一環として、「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」(座長:陣内 秀信 法政大学デザイン工学部教授)を設置し、これまで4回開催してきました。ここで生まれたヒントフレーズなどを「水辺とまちの未来創造メッセージ ～ここから水辺の未来が動き出す～」として取りまとめました。今後、より多くの方によって、水辺の賢い利用が進むことを期待しています。

○懇談会とは

水辺とまちの未来創造に向けたメッセージを発信するため、各界の有識者等からなる懇談会を設置

懇談会経緯:平成25年12月27日 第1回 コメンテーター:座長 陣内秀信(法政大学デザイン工学部建築学科教授)をはじめ、
平成26年 1月16日 第2回 学識者、金融・不動産・飲食関係者、編集者、河
平成26年 2月 7日 第3回 川利用者、地方公共団体等より構成
平成26年 2月27日 第4回



堀川花盛

(名古屋名所団扇絵集 市博物館所蔵)

○水辺とまちの未来創造メッセージ(抜粋)

(1) 水辺は猥雑で色気があった。日本の水辺は世界に誇れるものであるはず

かつて水辺は猥雑で色気があったにもかかわらず、治水重視という時代の要請により水辺は様変わりしていった。しかし、現在でもなお水辺には潜在的に魅力がたくさん詰まっている。

(2) 河川空間は公共空間なのに自由に使えない？

日本の河川空間は公共空間であるのに自由に使えないという経験を持った人がたくさんいる。また、そもそも近づこうとしない人もいようだ。自分たちの手で水辺のまちづくりに関わり、まちに対する誇りと自由度の高い空間を取り戻そう。

(3) 水辺を使い倒して、楽しみ倒す

水辺にはわくわく感があり、楽しみもビジネスも眠っている。「とんでもないこと」と思って尻込みするのではなく、とにかく使い倒して、楽しみ倒そう。

(4) 地域固有の歴史・文化を活かしつつ、クリエイティブに再生する

水辺を再生するには、大規模開発よりも既存の施設をリノベーションすることが有利である。海外で多く見られるように、アーティストやクリエイター、先見性のある企業などが活躍すべき場所である。

(5) 自分たちで水辺を楽しむ礼儀作法をつくる

なんでもありで水辺を無秩序に利用するだけでは、行政との競合は解消しない。最低限のルール、礼儀作法が必要であり、その作法を利用者自ら考えるという自己責任の文化の確立が必要である。

(6) 水辺の利用者、地域住民、行政をつなぐコーディネーターが必要

利用者の思いと行政の管理との間に競合があり、その調整に膨大なエネルギーが消費され、あきらめてしまいがち。また、地元の一部の反対により実現できない場合もある。かつてのテキ屋のように利用者、地域住民、行政をつなぐコーディネーターが必要である。



日本橋川(東京都)

(7) 行政は公平、公正、中立の姿勢は重要であるが、新しい提案を受け入れたりする度量をもつ

行政サイドの公平、公正、中立の姿勢は重要であるが、時代の要請にさらに柔軟に対応していくためには、利用者の意見をよく聞き、共に考える姿勢が求められている。また、縦割り行政の弊害により水辺とまちが分断されていたり、中央と地方(現場)の感覚にズレもあったりする。

(8) 持続可能性を担保する資金調達や規制緩和のしくみ

持続可能性を担保するためには、資金調達や規制緩和についてさらに工夫していく必要がある。占用料や使用料の有効活用方策、クラウドファンディング、ファンドレイジングなどの新たな仕組みを検討してみよう。

(9) 未来の水辺に向かってつなげる、育てる

日々目にしているものと記憶をつなげてアプローチすることは共感を得るための重要な視点である。同じ思いを持つもの同士が協力することが大切であり、利用者自らが水辺をつくり、使い、育てることが重要である。

(10) 水辺の使い方に対する共感と実践を広げていくためのプロモーションの方法

都市の資産としての水辺の使い方を市民・行政ともに広めていくためには、よりよい使い方、理想的なあり方を広く周知する必要がある。それがひいては、「日本ならではの」水辺の利用を促し、都市ごとのブランド認知にも寄与することとなる。